2016
OCTOBER

# 米沢有為会
# 東京支部だより

vol.20

発行／(公社)米沢有為会東京支部　発行人／加藤 国雄　発行日／平成２８年１０月２０日
〒182-0004 東京都調布市入間町１－３６ 東京興譲館内　TEL/FAX 03-3309-3302
東京支部ホームページ　http://www.yonezawa-yuuikai.org/tokyo_shibu/

東京支部総会　笑顔の記念写真

巻頭言

## 高齢者に対する医療・生活体系は如何にあるべきか

東北大学名誉教授　田林 晄一

六十五歳以上の老人が国民総人口の七％を超え、十四％未満の時、その国は高齢化社会と定義されている。六十五歳以上の老人人口が十四％を超える国は高齢国家と呼ばれる。フランスは高齢国家になるまで１１５年を要し、米国は75年要したが、日本は25年で超え、２０２５年には65歳以上の人口は三〇％を超え、２０８３年には高齢化率が四一・三％とピークに達すると予想されている。

この様な急速の高齢化の背景には出生人口の減少と老人人口の平均寿命の延長によるものである。２０１５年における日本の平均寿命は男性が80・79歳、女性が87・05歳で男性は世界第２位、女性は世界第４位、女性は世界第２位であり、この背景には日本の少子化、優れた環境衛生、生活習慣病の予防と早期発見による早期治療が関与したとされている。

高齢者の自立度調査では男性の七割、女性の九割、合わせて八割の高齢者は70代半ばまでは概ね元気だが、その当りから少しずつ自立度が低下していく。

多くの場合、骨や筋力の衰えによる運動機能の低下による虚弱化が原因である。七十五歳以上の後期高齢者は介助の対象というイメージが多いが大多数の人達は多少の助けがあれば、日常生活を続けることが出来ると報告されている。

このような後期高齢者が生活していく上で目指す項目として

一、愛すること（生き甲斐を持って生きる上で必須）

二、創（はじ）めること（今までやったことの無いことへの挑戦、わたくしたちの体にある未発掘の遺伝子を新たに活性化させる）

三、耐えること（その人に大切なものを喪うことによる悲嘆の経験はその人の感性を高め、同じような悲嘆を持つ人への共感の度が高くなる）

を勧める報告は興味深い。

高齢者では六人中五人は何らかの異常、例えば高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満などを持っていて、全く異常が無いのは六人中一人の割合であったとされている。

高齢者に多い疾患はがん、心血管系疾患、糖尿病、高血圧、認知症、閉塞性肺疾患、首・関節疾患、感覚器（眼、耳）疾患である。

これらの疾患は遺伝素因、早い時期の環境要因、更に成人になってからの環境要因によって徐々に進行する。今後、高齢者の社会・医療体系を考える上で、次の三点が重要と考える。

一、従来生活の場としてきた地域での一医療として考える。

二、医師個人の医療ではなくパラメディカル及び家族も一体となったチーム医療とする。

三、疾患の根治性より生活の質の改善が得られる治療を目指す。

東京大学高齢社会総合研究機構は高齢社会が抱えている種々の問題点を解決する目的で「長寿社会のまちづくり」の社会実験を行っているが、その有用性が実証され、実現化が待たれる。

（昭和四十一年米沢興譲館高校卒、東北大学医学部胸部外科教授、日本胸部外科学会理事長・東北厚生年金病院長・東北薬科大学統括病院長等を歴任）

第18回 文化大学

平成28年4月24日(日)
於・東京興讓館

# 井上ひさしと「こまつ座」そして私

こまつ座代表取締役社長　井上　麻矢

私がこまつ座に入ったのは、父から経理の方が今度いなくなるので、経理をしてほしいという電話で誘われたのがきっかけです。今思うと父がこの世からいなくなる2年半くらい前のことだったと記憶しています。

その頃私はやっと取得した別の国際免許をいかして仕事をするために転職先も考えていた矢先、この話を聞いた時はちょっとびっくりしました。

父が私に何か頼みごとをしてきたという記憶はなく、どちらかと言えば父と母の離婚という家庭環境の中では、私はいつも母側の娘という意識が父にあったからだと思います。びっくりしましたが、何より初めての頼みごとであったこと、その当時勤めていた会社の社長さんが大変もののわかった素晴らしい経営者で「麻矢さん、一生に一度は親のいう事というのはきくものよ。」と諭してくださった事も大きく、とりあえず父には「経理というのは向き、不向きがあるものだから、学校に行かせてくれないか?」とお願いしました。

父は経理学校のお金を喜んで出すと言ってくれまして、しばらく勉強と仕事を両立させて返事は保留にしていました。本当に経理に適した人間かが、自分ではわからなかったからです。

勉強してみて初めて、自分がいかに数字に苦手意識があったかを思い知りました。というのは経理の勉強は本当に楽しかったからです。とことんまでお金をきれいに仕訳していく。数字自体に人格があって、しかるべきところにそれを入れ込み、会社という仕組みの中で整理整頓していくというのはとても楽しい作業でした。

経理は常にバランスシートですから、作家の家というアンバランスな家庭で育った自分にはなんとなく安心できる勉学であったとも言えます。自信をつけてこまつ座に入ったのは2009年4月、それから3か月はお金の事だけ、そして帳簿の事だけを見て過ごしました。そして正直少しだけ後悔しました。

累計赤字が多く、単発の黒字は出るものの、老舗劇団の内情は大変なものだと思いました。こんな不安定な会社に勤めていて大丈夫だろうか…不安ばかりでした。

しかしその一方で、父に信頼される喜びはありました。一度父に借金について意見したことがあります。

「今ならばわずかな財産をすべて現金化すれば借金は返せるし、社長（私は父を会社ではそうよんでいました。）も好きなところに好きな時にだけ戯曲を書けるのでは?」とこまつ座を閉じる話をしたことがあります。そうしたら父ははっきりと私に次のように言いました。「こまつ座があるから芝居を書いてくることが出来た。いわばこまつ座には恩があるのです。自分が沢山の方に迷惑をおかけして芝居を作ってきた経緯を考えると簡単につぶすことは出来ません。」なんとも父らしい返事でした。

私は今日現在までこの言葉をお守りにして生きてきたと言えます。その後、父は一本の新作を戯曲として書いた後、あっという間にあの世に逝ってしまいました。

父から教わった事は沢山あります。例えば、この魑魅魍魎とした演劇界の中で生き抜くために父が私を励ましてくれた言葉の数々は今でも私の生きる上での大きな物差しとなっています。演劇というものをどう捉え、そしてその中で決して一人で出来ないこと、一人で出来ないことだからこそ演劇は素晴らしいのだと、言葉を変えて伝えてくれたことを今とても感謝しています。

私は今日も父の遺してくれた言葉に後押しをされて生きています。

父はもうこの世にはいないのですが、よくファンの方から言われるのは「こまつ座があるから井上さんはまだ生きているみたいな錯覚がするのよ」と…。

「自分という作品を作っているつもりで生きていきなさい」と今も背中を押してくれている気がしてなりません。

（プロフィール）
東京・柳橋に生まれる。御茶ノ水の文化学院高等部英語科に入学。在学中に渡仏。
帰国後、スポーツニッポン新聞社本社勤務。二女の出産を機に退職し、さまざま職を経験する。IFPA（英国）認定国際プロフェッショナルアロマセラピスト、フィジカルトレーナーとして活躍。イタリア版「父と暮せば」でフランコ・エンリケツ賞、第37回菊田一夫演劇賞特別賞、第47回紀伊國屋賞団体賞などを受賞。

こまつ座
KOMATSUZA

## 第19回 文化大学

平成28年7月17日(日)
於・東京興譲館

# 明治の建築家 伊東忠太 オスマン帝国をゆく

イスタンブル工科大学非常勤准教授補
ジラルデッリ 青木美由紀

米沢生れの伊東忠太(1867-1954)は明治ももうすぐ終わろうという頃、世界を一周する旅に出た。

1902年3月29日に東京・新橋を出発して中国・天津に渡り、中国国内旅行のあと、東南アジア諸国、インド、スリランカ、オスマン帝国（現在のトルコ、エジプト、シリア、パレスチナ、イスラエル、レバノン、ヨルダン）を巡り、欧州各国と米国経由で帰国した。じつに、3年3ヶ月の旅である。

物見遊山ではない。それどころか、費用を明治政府に賄わせた、官費旅行であった。

公的な名目は、「中国・印度・土耳其留学」。東京帝国大学で教授昇進のために不可欠とされた不文律、「洋行」である。しかし、誰もが望む西洋でなく、忠太は「東洋」行きを懇請した。日本建築の源流を突き止めるには、東洋を見るしかない、そう思い極めていた。

それには理由がある。博士論文で書いた『法隆寺建築論』法隆寺中門の柱には、ギリシャ建築と同じエンタシス（胴張り）がある。それを根拠に、日本最古の建築・法隆寺の起源はギリシャ、と説いた。忠太の願いは、これを実際に歩いて証明することだった。

大胆な学説の背景には、新興国明治日本の切実な事情があった。当時、西洋の学界ではギリシャ・ローマの古典主義が王道。極東の島国、日本など、建築史の俎上にものぼらない。憤慨した忠太は考えた。日本建築の源流が、西洋建築で最上位のギリシャと証明できれば、日本建築の価値も自動的に上がるはずだ。そこまでして西洋に自分を認めさせる必要が、当時の日本にはあったのだった。

忠太がイスタンブルに到着したのは1904年5月8日。この地でオスマン帝国のモスクやビザンチン時代の教会を訪問、博物館でシルクロードの出土品を研究し、オスマン帝国の首都を行き交うさまざまな人々を観察した。当時のスルタン・アブデュルハミット二世から、メジティ三等勲章も拝領した。これは現在米沢市立上杉博物館に保存されている。

そして7月末、イスタンブルを鉄道で出発し、内陸の旅へ。アンカラ、エスキシェヒル、キュタフヤ、アフィヨンカラヒサール、コンヤ。ほんとうは、バグダッドまで旅を続けるはずが、エーゲ海へ方向転換をしたのは灼熱と臭虫に悩まされたせいだった。エフェス、ミレトス、ディディムで初めてギリシャ建築を実見。イズミルから地中海へ漕ぎ出し、クレタ島、アレキサンドリア、カイロ、ルクソール。カイロでは、かつて見ない「壮大さ」を経験した。同時に、建築様式の重層的な成り立ちに気づき、「イスラム建築」「東洋建築」の根本を問いはじめる。

パレスチナへは、敵国ロシアの船に乗った。乗客・乗組員一同戦々恐々、忠太は注目の的となる。テルアビブ、イエルサレム、死海、ダマスカス、ベイルート、アレッポ、タルススからトロス山脈を越え、イスタンブルへ戻った。

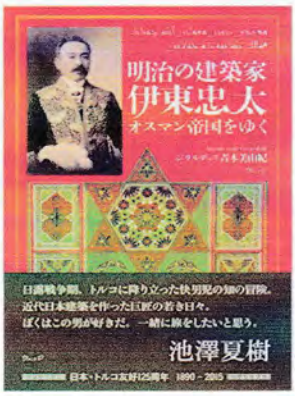
この旅は、忠太に視点の転換をもたらした。

日本文化の源流が西洋古典のギリシャだという自説はいつのまにか重要でなくなり、新たな世界観を獲得する。1909年に発表された通称「建築進化論」は、主流から枝分かれする傍流という、従来の文化の流れの常識とは、まったくちがう考え方を提示していた。忠太は、幾つもの大きさの異なる円が重なり合い、ネットワークを形成しながら広がる文化の姿を示したのである。

この世界は一つの文化的強者を中心に動くのではない。お互いに影響関係を及ぼし合う数知れない異なる文化、その多様性からなりたっている。

世界旅行の果てに忠太がたどりついたこの世界観は、グローバリゼーションの時代といわれる今、ローカル（地方）の独自性が重要であることを、現代に生きるわれわれに語りかけてくれる。

（プロフィール）
北九州市出身。
早稲田大学大学院文学研究科で美術史学を専修。
トルコ国立イスタンブル工科大学社会科学研究院で美術史建築史博士課程修了。
同大非常勤准教授補。
NHK BS「世界遺産、時を刻む」などの案内役で活躍中。



## 新会員 自己紹介

竹股　理志

### はじめまして

この度、米沢有為会に入会させていただきました、昭和二十四年生まれの竹股理志（たけのまた　さとし）です。

米沢生まれの米沢育ちではありますが山大の大学院を修了後ＮＥＣに入社し、米沢から横浜に移り、現在に至っておりますので横浜での生活の方がはるかに長くなりました。

現在の米沢市内は新しい町名になっておりますが、子供の頃の旧町名、例えば御膳部町、鍛冶町、紺屋町・・・など、旧町名や街並みが何とも懐かしく思い出されます。妻の実家も米沢であるため帰省することも多いので、当時の地図を片手に、くまなく歩いてみたいと思っている今日この頃です。

先祖代々の菩提寺は米沢市南原にある常慶院ですが、上杉家の家臣であった竹俣当綱のお墓もあります。先祖と当綱との関係は当綱の四代前の三男の家系と聞いております。

米沢有為会について詳しいことは知らずにおりましたが、数か月前に興譲館高校で同級生の五雲寺さんから熱心なお誘いがあり、米沢生まれの米沢育ちと言いながら郷里に対して何もしてこなかったことを痛感し入会を希望しました。微力ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

小泉　宏一

### アザラシおじさんの由来

米沢ではあまり見られない猿滑りや酔芙蓉の花々が咲きほこっています。

過日姉の長男が成城に新築したのでお祝いかねて訪問しその折彼が「叔父さん面白い所を案内するよ」と連れていかれたところが米沢有為会東京支部でした。責任者が不在でしたので日を改めて川合さんに会い親しくお話しをしました。

私の記憶では、五十年ほど前、近藤鉄雄代議士の秘書の原さんに連れられ有為会の野外パーティーに参加しました。

八十六才になり記憶も定かでありませんが旧制中学最後の卒業と思います。当時米駐留軍が米沢主要邸を接収した。

私は、早速アメリカの生活文化に触れたいと思い上杉邸将校宿舎や濱田酒造邸でハウスボーイとして働きました。

その後上京し神田にあった日米会話学院で学び一旦米沢に戻り神町飛行場で通訳をしました。

一九五〇年オランダ銀行東京支店（丸の内）に採用され外国為替や輸出入の仕事でした。

その間米沢織物組合の本間さんが生糸かなんかの輸出の件で銀行に偶然見えられお手伝いしたことがあります。

一九六一年退職しサンフランシスコ州立大学に入学する。趣味がボクシングで、金平ジムの故金平正紀会長とは現役時代からの友人です。その関係で留学中に元フライ級チャンピオンの海老原博幸がロスに来たときは通訳としてお世話しました。

一九六四年帰国しアメリカ大手香料会社ＩＦＦに入社し一九九二年に退職する。

アザラシとの出会いは、当時オット製薬という会社がセブペプタイドを製造するためアメリカからオットセイを年間五万頭輸入していた。それが動物保護のため禁止された。工場長に頼まれてカナダ大使館に陳情に行ったところ、オットセイはダメだがアザラシは沢山いるという話になった。

これが切っ掛けで一九九三年カナダニューファンランド州アザラシ協会の招聘を受けアザラシの肉油の有効利用についてのセミナーに参加する。その際、ここには六百万頭のアザラシがいる。　その五％三十万頭を殺さないとシシャモなどの魚介類を食い荒らすのでその有効利用を考えてほしいという話だった。

これが縁でアザラシオイルの輸入販売を始め、未だこの仕事に従事しています。

（カナダアザラシ協会　駐日代表）

## 本の紹介

### 「ＮＡＳＡより宇宙に近い町工場」

植松電機専務取締役　植松　努

植松さんは、北海道でリサイクルに使うパワーショベルにつけるマグネットを製造する二十人の会社を経営しています。また中学高校時代に紙飛行機やペーパークラフトに夢中になって赤点の帝王と言われたそうです。

経営方針は、「壊れない製品を作り、稼働率を下げる。なるべく売らない。なるべく作らない。」とユニークなものです。その余裕ができた時間で、宇宙開発の仕事を自前でしています。

宇宙開発は「どうせ無理」という言葉をこの世の中からなくすための手段と考えています。そのことによって、「どうやったら出来るかを考える」人間を育てるためです。

この会社が作っているロケットは、北海道大学大学院永田晴紀教授が開発したものでポリエチレンを燃料にしています。そのため、爆発しない安全なロケットです。

この会社は、ロケットや人工衛星をつくるのに必要な実験施設を、国の施設などの使用料が高く、小さな会社では、負担が大きく、ゼロからのスタートで作りました。今では、お金のかからない実験施設だということで、世界中からいろんな研究者が実験をしに来ています。今地球の周りには、人工衛星の残骸などのデブリと言われているごみがいっぱいあります。このデブリが、人工衛星に激突して壊してしまいます。

このやっかいなデブリを処理するためにこの会社の、安くて小型のロケットと人工衛星の利用が期待されています。

今やこの会社の研究実績が認められ、NASAから次世代スペースシャトルの開発を委託されているアメリカのロケットブレーン社と一緒に仕事が出来るようになっています。

この本読むと元気が出てきます。ものつくり日本の在り方や教育の在り方についても考えさせられます。この本は、学生や教育現場の先生方にも是非読んで欲しいと思います。

## 新入寮生の出発を祝う

### 東京支部総会・懇親会・歓迎会

平成二十八年六月五日にスクワール麹町で開催する。第一部の「定期総会」は加藤国雄支部長が議長となり平成二十七年度の事業及び決算報告、平成二十八年度の事業計画（案）及び予算（案）が承認されました。第二部の「懇親会・歓迎会」は、五雲寺卓理事の司会で開催されました。ご来賓の上杉邦憲名誉会長よりご祝辞を頂きました。その中で人間の出会いと人の縁について話されました。上杉様は、北海道スペースポートの実現に奔走されています。釧路でお会いした方が、米沢信用金庫会長の種村信次様と懇意であることを知って驚かれたそうです。また沖縄では、第二代県令の上杉茂憲公が東京に書生として連れて勉強を続けさせた人の末裔が、現在も沖縄で活躍されていること話されました。

寮生と有為会役員

続いて、須貝英雄会長からご祝辞を頂きました。その後、新入寮生の自己紹介と抱負を述べてもらいました。十二年五か月もの長い間勤務していただいた寮母の三浦絢子さんの後任として、今年の四月から、就任された福田富子さんからも自己紹介をしていただきました。

さらに、こまつ座社長の井上麻矢様からも次のような励ましの言葉を頂きました。

「新しい季節に寮に入られた皆さん、おめでとうございます。そして、これから住む場所は、皆さんの心の故郷となる場所になるはずです。私の下の娘も今大学二年生で、寮で生活しています。一人では何も出来ない娘でしたが、寮生活二年の中で様々なことを覚え、そして、家にいては到底感じることのできない辛さや喜びを経て、同時に大きく成長をしたと思えてなりません。館長先生がまさに頼れる存在となり、初めて皆さんの世界が大きく拡がっていくことでしょう。」

続いて、名誉会員の下條泰生様のご発声で乾杯し懇親会に入りました。鈴木信之副支部長の一本締めで盛況のうちに終了しました。

（川合　記）

**平成28年　新奨学生名簿　今年は下記５名の学生が新たに選抜されました。**

| 氏名 | 大学・学部・学科 | 学年 | 出身高校・大学 | 出身地 |
|---|---|---|---|---|
| 今野　莉妃 | 東北福祉大学総合福祉学部 | １年 | 南陽高校 | 白鷹町 |
| 斎藤　恭兵 | 千葉大学工学部3年次編入 | ３年 | 鶴岡工業高専 | 米沢市 |
| 二瓶　太陽 | 東北福祉大学総合ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部 | １年 | 米沢東高校 | 米沢市 |
| 紺野　雄太 | 山形大学医学部 | １年 | 米沢興譲館高校 | 川西町 |
| 岩瀬　宏紀 | 東北大学大学院経済・経営研究科 | 修士１年 | 米沢中央高校　国士舘大学 | 米沢市 |

**東京興譲館　新入寮生名簿　平成28年10月現在**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大亀　雅秀 | 明治大学商学部 | １年 | 米沢東高校 | 米沢市 |
| 中村　大真 | 東京外国語大学言語文化学部 | １年 | 大学検定 | 鶴岡市 |
| 五十嵐篤志 | 東京外国語大学国際社会学部 | ２年 | 山形東高校 | 山形市 |
| 中川　　陸 | 国学院大学文学部 | ２年 | 米沢興譲館高校 | 米沢市 |
| 柏倉　全一 | 早稲田大学大学院政治学研究科 | 修士１年 | 山形南高校　立教大学 | 寒河江市 |

奨学生「私の志」

## 誰にも使いやすい情報社会の実現をめざす

千葉大学工学部　三年
斎藤　恭兵

現代では、情報が非常に多く、技術の進歩も急速に進んでいる。また、パソコン・スマートフォン・インターネットなどが普及し、これらを使いこなせば私達の生活はより便利に豊かになる。しかしこのような道具を使うことが出来るのは限られた人しかいないように思う。

特に高齢者や障害者などがそうである。操作方法が複雑になり、直観的に操作が出来ないからだ。

私は、鶴岡高専の卒業研究で無人航空機を用いた農場管理システムの研究を行った。これは、無人飛行機を自動運転させ、農場や作物の情報を集めるというものである。この研究の背景にも高齢者が効率的に農場管理を行えるようにするねらいがある。

大学編入後は基礎知識をさらに増やし、情報処理の分野について深く学び、誰もが使うことが出来、生活が豊かになるような研究をしたいと考えている。

## マレーシアから学んだ旅

大亀　雅秀

高校生の頃読んだ深夜特急を思い出す。バックパッカーの聖書とも呼ばれるこの本を読んでこの旅を決意したのだ。香港からシンガポール（トランジットを含めると台湾）まで計八カ国九エリアを巡って様々なものを見て、触れて、感じ、そして生きた三十二日間だった。そんな旅の中一番印象に残った街の話をしようと思う。

マラッカの夕日

マレーシアの首都クアラルンプールからバスで二時間ほど行ったところにあるマラッカはマレーシア有数の経済都市であるとともに世界遺産にも登録されている不思議な場所だ。古くはオランダ、ポルトガル、イギリスの植民地だった歴史を持っておりアジアにいながらヨーロッパを感じることができる。また、中国とも昔から交流が深く中華街などもある。そう、ここはアジアと欧米の文化が入り混じった街なのだ。そして何より世界三大夕日にも数えられる絶景を見ることができ、それがこの旅の最大の目的でもあった。結論を言えば残念なことに満足いくものを見ることはできなかった。季節は雨期僕が滞在していた数日間も例外ではなかった。

しかし、上記のような異質性を持ったこの街で見たものは興味深かった。植民地時代から残る教会やその遺跡。マレー文化が混ざり独自の発展を遂げた中華料理、マレーシア博物館、イスラム教のモスク。そして様々な国の人々。まさに「異国」であった。日本では味わうことのできない文化がひしめき合っているこの街で見て、感じたものはこの旅のなかでは圧倒的で、だからこそ一番印象に残ったのだろう。夕日を見ることが出来なかったのは残念だったが…。

もし、皆さんがマレーシアに行く機会があれば立ち寄ってはいかがだろうか。

（明治大学商学部一年・寮生）

## 企業法務に強い弁護士を目指す

安部　雅俊

私は高校の頃より法曹に対する漠然とした憧れがあり、大学入学後は司法試験合格に向けて一年次から勉強に取り組みました。そんな中、幸い平成26年度司法試験予備試験に合格して司法試験の受験資格を得、平成27年度司法試験に合格することができました。大学卒業後は平成二十八年十二月より一年間の司法修習の後、平成三十年一月より東京麹町の法律事務所で弁護士として働く予定です。

弁護士というと、世間的には債務整理や離婚等の街弁的なイメージが強いかと思われますが、私は企業法務と呼ばれる企業の経済活動を主要領域として扱う弁護士として活動します。企業のあらゆる活動は法律と密接な関わりを持っています。社会全体でコンプライアンス（法令遵守）意識が高まる昨今、企業が安心してビジネスに打ち込むためには法律のプロによるこれらの企業活動に対するサポートが欠かせません。代表的なものとしてはM&A、ファイナンス、企業訴訟・仲裁、独禁法関係の業務分野が挙げられます。また、既存の企業活動だけではなく、最近ではビッグデータやIoTといった新技術を駆使した全く新しいビジネスモデル（金融分野では特に「FinTech」等と呼称されています。）も展開されており、これらの一連の動きに対して既存の法律・判例では対応できない部分も多く存在します。弁護士の仕事はこういったリスクへの事後的対処のみならず、リスクを最小限にする予防法務、時には実務の最前線で培った経験を活かして立法に携わるケースもあります。

私自身これらの業務のうちで何を専門として手掛けていくかは未だ決まっていませんが、上記の様々な業務の活動を通して変化の激しい現代社会にプラスの影響を及ぼしていきたいと考えています。

（中央大学法学部　平成二十七年度卒　寮生・奨学生ＯＢ）

## やりがいと喜び

寮母　福田　富子

私は、この四月より東京興譲館の寮母となりました福田でございます。寮母としての仕事は初めての事でもあり、手探りの状況からのスタートでした。今ではすっかり慣れとてもやりがいのある仕事に感謝しております。有為会、興譲館の由来にふれ、とても歴史と伝統あるこの寮に身を置いている事に、何故か深い思いを感じております。

と申しますのは、あの上杉謙信と武田信玄の歴史的な戦場であった川中島の古戦場は私が生まれ育った故郷ですのでとても親近感があります。

日々、絶対無事故を願いつつ食事作りから始まります。寮生の皆さん一人一人の健康管理に留意しながら安心、安全を心掛け、毎日のメニューに悪戦苦闘しております。寮生の皆さんの食べっぷりを見ているだけで、とても張り合いがあり、また私の喜びでもあります。日常の生活面では、寮生の皆さんが今、寮生活をしているとの意識を更に高めて行けたら、もっともっと、躍動感のある素晴らしい寮になれると信じています。

ある記事に「誰かが与えてくれる、やってくれると言った受け身ではなく、自分は何をしたら良いのか、何が出来るだろうかとの発信者でありたい。」とありました。

私も興譲館寮の一人として自分の成すべき事は何かを考え、実践し行動に移しながら寮生皆さんの成長を見守り、そのお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

米沢有為会の皆様、そして寮生の皆さん、今後ともどうぞ宜しくお願い申しあげます。

## 「漆の実」近況について

主宰　鈴木 淳一

俳誌・「漆の実」もこの九月で通巻六十号を迎える。六十号といってもこの間一回の休会もなく休刊もなくここまで来た事は大変な驚きだ。まず会員十数名が一つの輪になって進んだ事。次に句会の場所が、田町駅前の「キャンパスイノベーションセンタ」（山形大学）の好意で毎月確保（第四土曜日・一時～）されていること。この件については、山形大学・工学部ＯＢの校友会「米沢工業会」の役員に私と、池田謙自、中川紘一の両氏が居る事や、年に一回発刊の「米沢工業会誌」の俳句欄、「吾妻俳壇」の選者を現在も十数年来たずさわってきた事も好条件であった。それと事務局の、小山・中川両氏が「漆の実」編集のわずらわしさを克服してきてくれた事等々であろう。

そこで通巻六十号発刊を目前に最近の会員諸兄姉の作品（私の推選句）夫々二句と私の作品五句を掲上したのでご鑑賞願えればありがたい。末筆になりましたが、文化広報部長梅津幸保様・東京支部諮問委員今井浩之介様には常に「漆の実」をバックアップしていただき感謝申し上げます。

## 俳句同好会「漆の実」

### 作品十句

漆の実・主宰　鈴木淳一

敗戦忌黒いカラスが地を歩む
天の川海抜書かる橋に佇ち
炎帝に逝（め）されし君は海に咲け
盛夏来て農耕民族の貌となる
飾り窓盛夏銀座は人動く

### 漆の実抄

下條怡生

EUの一角崩れ冷奴
夜目なれどそれと解りし栗の花

小山八州史

忽とゆく流しさうめん忽と過ぎ
冷奴晩節汚すすべもなし

池田弁之助

保険証身につけ歩く盛夏なり
「あなただれ」白寿の叔母の盛夏かな

片山丹波

ジーパンの穿（あな）多き娘や夏盛
新宿に修司在りし日冬の鵙

登坂かりん

数寄屋橋行都電よろよろ日の盛り
クスケンの視線忘れじ巴里祭

濱田扇風

冷房を切って聴こえる夜の音
夏盛る朱線の津波到達点

中川はじめ

冷奴崩し日曜一人飯
冷房の風向きはかり席選び

太田甘美

夏盛ん東京タワーの朱い色
息吐いて吸いて大滝我が胸に

松坂六義

帰り道馴染みの店の冷奴
木遺稽古筏の上や盛夏木場

松原薫

青竹の器に浮かぶ冷奴
よき音の陶器のスプーン冷奴

佐野眞

虫眼鏡蟻焼き殺す悪戯（あくぎ）かな
鬱屈も知らず伸びたるチューリップ

## 短歌同好会

### 第二十五回　古今小杉短歌会

平成二十八年八月三十一日

夜明けさの雨に濡れるし参道に
むくげ一花涼しげにあり
師・歌人　香川三枝

貧しくもやさしく我を育みし
母をただただ楽させたくて
耐える事耐え得る事が出来る俺
そんな自分をきらいじゃなくて
吉田数馬

祭りの夜出店に向かう幼子を
しっかり握る母の手強し
最上川台風雨には逆らえず
泥を運びて流れ渦巻く
嶋貫昭雄

立佞武多（たちねぶた）はねとが跳ねる五所川原
津軽の夏は幻のごと

ネジバナは左巻あり右もある
ねじれねじれてなにを求めむ

心太（ところてん）なまえの由来問うてみる
一本箸で食らうも不思議
近藤郁子

観光の熱いまなざし注がれて
海にたたずむ人魚姫の像

船旅は二十日に及びようやくに
全員の名を覚えて別る
樋渡三保子

＊当短歌会は、今回をもって終了となりました。

## トノ・エッセイ(1)

# 「6人目の留学生」～高良次郎　沖縄から東京へ～

上杉 邦憲

「めんそーれ」と迎えられた上杉茂憲は、沖縄の言葉に戸惑ったことでしょう。明治十四年（1881）第二代県令として沖縄に赴任した茂憲はまもなく高良次郎（タカラジールー）という十六歳の少年と出会います。

次郎は牧志（マキシ）村（現那覇市牧志）の高良亀とツルという目出度い名前の夫婦の長男ですが、どこで覚えたのか、ウフヤマト（内地）の言葉を良く話す非常に利発な少年でした。茂憲は、次郎が内地へ留学して勉強したい、という夢を持っていることを知り、住み込みの召使兼通訳として月給三円で雇うとともに、習字や算術などを教えることにしました。

本土とあまりに格差のある沖縄の民生改革に取り組んだ茂憲は、旧慣温存を図る政府の方針とは相容れず、在任わずか二年で解任されてしまいます。しかし県政改革のためには真っ先に全県民に教育を普及しなければならないと考え、「元来人民をして開明の地に進むるは学術の他無し」と教育の重要性を説き、人材育成に力を注ぎました。

県費留学生制度を創り、第一回留学生として、太田朝敷（首里士族）、岸本賀昌（那覇士族）、謝花昇（東風平間切平民）、高嶺朝教（元琉球王族）、山口全述（士族）の五人を東京に派遣したのは、その一例です。特に、まだ身分制度のあった当時、平民の謝花昇が選ばれたことは特筆すべきでしょう。

そして沖縄を去る時、茂憲は高良次郎を東京に連れて行き、いわゆる書生として勉強を続けさせます。六人目の留学生の誕生です。上杉家の記録には、明治十八年、次郎は病弱だった茂憲の嫡男憲章の湯治に付き添って有馬温泉に行き、帰京後褒美として五円貰った、とあります。

明治十九年（1886）九月に水産講習所（現東京水産大学）入学、卒業後沖縄に帰った次郎は、沖縄県庁に勤めたようですが、戦災で記録が失われてしまい、詳しいことは分かりませんでした。

しかしながら、最近になって次郎の孫にあたる高良阮二さんと曾孫の祐之さんと連絡がとれ、次のようなお話を聞くことが出来ました。

「次郎じいさんは達筆で、県庁でも字を書く仕事をしていた。ただ内地から学問を修めて帰って来たので、いじめられたのではないか？酒をよく飲んでいて体を壊し五十歳くらいで亡くなった。ただ、子供たちには一生懸命勉強するように厳しく言っていた」

そして、阮二さんが沖縄国際大学法学部教授を務められ、祐之さんが那覇で弁護士として活躍されていることを知りました。鷹山公の熾した火種が、茂憲を通じて今でも沖縄で燃えているように思えてなりません。

## 園遊会のご案内

日時：平成28年11月5日(土)
午後1時～3時　12時30分受付開始
会場：小石川後楽園・涵徳亭
多数のご参加をお待ちしてます。

## 第21回 文化大学のご案内

演題：日本人の子供虐待予防対策と人とロボットの共生について
講師：西館 好子(日本子守唄協会理事長)
日時：平成28年11月13日(日)午後2時～
会場は東京興譲館寮

## 編／集／後／記

▼団塊の世代も、あと6年で後期高齢者になります。巻頭言を書いていただいた田林晄一東北大学名誉教授のモットーは「一生勉強、一生青春、努力は運を支配する。」です。彼の外科医としての活動実績は、高校が同期の私達にとっての誇りです。

▼家内の叔母さんが特別養護老人ホームに入っています。車いすに乗って隣接する病院での週2回のリハビリで体を動かすことや書道を楽しみにしていました。ところが、介護費の削減のためリハビリは廃止されていました。先日面会にいったときにその変わりように驚きました。却って介護者の負担を大きくしています。

▼井上ひさしさんがボローニャを愛した理由の一つは演劇の力で街を活性化したモデルの地であることでした。井上ひさしさんの代表作の一つである「父と暮せば」はイタリア語にも翻訳されている。それで、井上麻矢さんは、ボローニャでその芝居を上演した。

結果は大成功であった。そしてその年に一番社会的な影響を及ぼした作品に与えられるフランコ・エンリケツ賞を受賞している。井上ひさしさんがご存命であればどんなに喜ばれたことでしょう。

▼東京興譲館には、寄贈していただいた「伊東忠太見聞野帖　清国（全二巻）」柏書房があります。ずっしりと重い大作です。一年二ヶ月にも渡る日本の仏教寺院の源流を探る長旅でした。スケッチを見ると建築物はもちろんのこといろんなことに関心を持たれていたことが分かります。建築史家の藤島亥治郎東京帝国大学教授が、伊藤忠太博士などの貴重な資料を空襲から守るために岩手県に疎開させていたことをその本で知りました。

▼新入会員である小泉宏一さんの自己紹介で、昭和二十一年に米駐留軍が上杉伯爵邸や濱田酒造邸などを接収し将校宿舎として利用していたことをはじめて知りました。そんな時代を知る人が少なくなっています。

▼今回から上杉邦憲名誉会長によるトノ・エッセイの欄を設けることにしました。これは、前東京支部長の米野宗禎さんの発案です。

▼9月25日の上杉邦憲名誉会長の講演会「今後の日本の有人宇宙開発について」の最後に北海道スペースポート実現のPRビデオで協賛企業の一つとして植松電機がありました。それが今回の本の紹介で取り上げた会社です。将来、北海道のスペースポートから宇宙船が打ち上げられる日が来ると思います。（川合記）

編集委員メンバー
委員長……川合　勝雄
米野　宗禎／佐藤　好明
鈴木　信之／倉田　和子
太田ひろみ／濱田　吾愛
近藤　郁子／宮坂　孝夫